

一勝地小だより

<https://es.higo.ed.jp/ishouchi/>

第5号
R4.9.29発行
文責：梅本 和高



学力充実の秋

2学期がはじまって、1か月が過ぎました。子供たちの様子も夏休みのリズムから学校のリズムに変わってきました。

2学期は、1年間で最も長い学期です。また、令和4年度の折り返し地点でもあります。学習にしろ、文化活動にしろ、気候の良い2学期は、それぞれの活動が充実する時期です。

学力もその中のひとつです。2学期の学習内容は豊富で、子供たちにとってみれば、それだけ身に付けるべき内容も多くなります。身に付けるためには学習が必要です。「文章を読んでその概要をとらえることができる」ための読む力や、「自分の考えを表現する」ための書く力、「筋道を立てて考えたとおり」に計算する力が必要となってきます。

一勝地小学校では、先月号でお知らせした「全国学力・学習状況調査」の結果を職員で分析し、学習して分かったことを、キーワードを使ったり、文字数を制限してまとめたりする活動や自分たちの考えを交流させ、練り上げる活動を充実させることなどを、2学期の授業に積極的に取り入れることにしました。

思いやりは学校生活の原動力

確かに〈こころ〉は誰にも見えない
けれど〈こころづかい〉は見えるのだ
それは 人に対する積極的な行為だからだ
同じように胸の中の〈思い〉は見えない
けれど〈思いやり〉はだれにでも見える
それも人に対する積極的な行為だから
あたたかい心が あたたかい行為になり
やさしい思いが やさしい行為になるとき〈心〉も〈思い〉も 初めて美しく生きる
：それは 人が人として生きることだ

詩人の宮澤章二さん（1919～2005年）の作品、「行為の意味」という詩です。

人は一人では生きていくことができません。人は互いに支え、支えられながら社会の中で生きています。そして、「思いやり」というあたたかい心に包まれて生きているのです。

学校もひとつの社会です。様々なことが起こります。しかし、そのときこそ他の人へのちょっとした思いやりやあたたかい心が重要な意味をもちます。心のぬくもりが周囲に波及し、より良い学校生活を築く原動力にしていきたいと思います。

クラブ活動で地域の力を活用

2学期になりクラブ活動がはじまりました。クラブ活動とは、学校教育における特別教育活動のひとつです。教科学習とは別に、共通の興味・関心をもつ子供たちが、異学年で集団をつくり、文化的な活動、スポーツ活動を行うものです。本年度は、いけばなクラブ、パッチワーククラブ、サッカークラブ、卓球クラブが活動しています。

特に本年度は、専門的な方から質の高い指導をしていただくことと、地域の方々とのつながりを築くことをねらいとして、外部の講師をお招きして指導していただいています。



いけばなクラブでは、テーマに基づいて一人一人が花を生けていきます。できた作品は、廊下に飾っています。



パッチワーククラブは、海をテーマにして、自分が選んだ布をあてて作品を作っています。



サッカークラブは、運動場で、基礎練習の後、2チームに分かれて試合をしています。



卓球クラブは、ランチルームに卓球台を準備して、ラケットの使い方やルールを教えてもらい、その後、試合をしています。

幼稚園・保育園と小学校の円滑な接続に向けて

一勝地小学校では、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続に当たって、一方が他方に合わせるのではなく、それぞれの発達段階を踏まえた活動を充実させ、お互いの教育・保育を理解し合い、子供の育ちや学びをつなげることができるよう、「くまもとスタンダード」に基づいた取組を行っています。その一環として、本年度の1年生が通っていた幼稚園・保育園の先生方に本校に来ていただき、授業参観及び情報交換会を行いました。1年生の成長の様子を見ていただくとともに、情報交換ができ有意義な会をもつことができました。